

2013年度 前期				リフレクションペーパー			
学科名	生物環境化学科						
科目名	栄養学						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	前期		
必修・選択の別	選択必修科目						
担当者	大貫 宏一郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	・酵素の基質特異性は何に由来するか説明できる。 ・神経興奮など生体における情報伝達システムを描ける。 ・バイオセンサにおける信号変換方法を列挙できる。 ・バイオセンサの長所と短所を説明できる。						
日程と内容	4/8：導入講義、授業の進め方と概要の説明、成績評価法など。 4/15：酵素の触媒能力 4/22：酵素タンパク質の立体構造 4/29：酵素の基質特異性 5/13：酵素の諸性質（最適pH、最適温度など） 5/20：酵素反応速度論 5/27：酵素に関する総括 6/3：生物の感覚、神経細胞 6/10：神経興奮、跳躍伝導 6/17：味覚の原理 6/24：嗅覚の原理 7/1：その他の化学感覚 7/8：視覚の原理 7/15：バイオセンサーに関する総括 7/22：定期試験 7/29：全体総括、復習						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題演習		計	100%			
授業到達目標の達成度	予定していた項目はすべて実施して、概ね達成できたと考えている。						
反省点	酵素と感覚という、難解な現象を説明するために、慎重になり過ぎたようであり、予想に反して全体的な点数が非常に高かった。より高度な内容にすべきだと考えた。						
来年度の計画	項目自体は同様として、内容の充実を図りたいと考えている。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合が8.6であることは良いことと考えられるが、平易であったためであるとも考えられる。自由記述では、「分かりやすい」「楽しい」が多くみられ、内容を理解してもらい、興味を持ってもらえたことは、成功であったと感じた。来年度はより高度な内容理解に挑戦し、同様の評価を目標としたい。各項目について、4.5程度の項目が多く、来年度も同等以上クオリティーを保っていきたいと考えている。また、板書の充実を望む声もあったことより、口頭での説明などを、なるべく板書することを努める予定である。						
履修登録者数	76 名	定期試験 受験者数	72 名	合格者数	72 名	合格率	100%